

WEEKLY

一宮

題字 PG 安野謙次

Rotary
一宮RC



The Rotary Club of Ichinomiya

●例会日 木曜日 ●例会場 一宮商工会議所 ●承認日 昭和24年12月31日
●事務局 ☎491-0858 一宮市栄4-6-8 一宮商工会議所ビル5階 電話(0586)24-1931

UNITE FOR GOOD

URL: <http://rc138.org> E-Mail: rc138@lily.ocn.ne.jp



重文「陵王」面 真清田神社蔵

2026年6月25日
第3681回例会

プログラム
クラブアッセンブリー
理事・役員退任挨拶

ロータリーソング「四つのテスト」

第3680回例会の記録
2026年6月11日(木)

会長挨拶

山上哲司

本日は、名古屋ゴルフ倶楽部和合コースの設計に携わった大谷光明をご紹介します。

大谷光明は1885年(明治18年)、浄土真宗本願寺派(西本願寺)第21世法主・光尊の三男として生まれました。1907年から3年間、英国ケンブリッジ大学に留学し、そこでゴルフやラグビーと出会います。

1915年に上京し、東京ゴルフ倶楽部を訪れた際、メンバーの高木喜寛に声をかけられたことをきっかけに同倶楽部に入会しました。後に大谷は高木に「声をかけていただき、まさに地獄に仏の思いでした」と感謝を述べたところ、高木は「仏はあなたのご専門でしょう」と応じたという逸話が残っております。

大谷は1922年には第16回日本アマチュアゴルフ選手権で優勝し、皇太子殿下(後の昭和天皇)のゴルフ指南役も務めました。さらに日本ゴルフ協会(JGA)の設立に尽力し、「日本アマ」や「日本オープン」といった競技の開催を実現させ、日本のゴルフ界の発展に大きく貢献しました。

1925年、再び英国を訪れてゴルフコース設計を学び、1928年に「川奈ホテルゴルフコース・大島コース」、翌1929年には「名古屋ゴルフ倶楽部和合コース」の設計に携わり、設計者としても高い評価を得ました。

ご承知の方も多いと思いますが、川奈ホテルゴルフコース大島コースでは、スコットランドにない各ホールに愛称が付けられています。7番ホールは「OHTANI'S SMILE」、そして最終ホールは「W&G (Wife & Drink)」と名づけられており、プレーの後には奥様とドリンクが待っているというわけです。

次回の予定

7/2 クラブアッセンブリー
新役員就任挨拶

会長 エレクト 桑原 英 寿
副会長 梯 國彦 副幹事 吉山 佐人 規
幹事 大鹿 晃 裕 会報委員長 梅谷 朋志

ロータリーの友6月号

牛田 滋

横組みの表紙は呉RCの大之木精二さんがお描きになった「佐渡の古刹」です。大之木さんが味わわれた静寂感が伝わってくる絵となっております。

今月はロータリー親睦活動月間となっており、5頁から15頁にかけてスキーやゴルフなどで親睦を図っているロータリアンが紹介されています。2026年4月時点で120以上の親睦活動グループがあることが15頁記載されています。

また、16頁から17頁までは第38回全国RA大会についての記事が紹介されています。各地区での事前ラーニングと対面での対話を分離し新しい形で実施されました。

縦組みの表紙は瑞浪RCの達川信彦さんの「ロンドンの街角」です。水彩画を描くことで世界中の風景を楽しんでおられるようです。

2頁から6頁には「ブラックサンダー」チョコレートで有名な有楽製菓株式会社の河合伴治会長の卓話要旨が載っています。原料であるカカオ豆の生産に児童労働問題があることを知り原料調達や取引のあり方を変えていこうとされたことが書かれています。私もお子さん方と触れ合う仕事をしておりますので興味深く拝読しました。以上6月号の紹介でした。

この一年間、広報雑誌委員として「ロータリーの友」の紹介をしてくださった、原正則さん、三嶋啓一郎さん、西岡信幸さん、本当にありがとうございました。

委員会報告

ニコボックス

田口 誠

☆ 豊島俊明君

先週のロータリーゴルフコンペで優勝させて頂きました。同じ組の土川さん、榊原さんありがとうございました。

☆ 山上哲司君

本日、岐阜関カントリー倶楽部の理事を拝命いたしました。森口裕子理事長をはじめ理事一同、よりグレードの高い倶楽部を目指して務めてまいります。一宮ロータリークラブ会員の皆さまのご来場をお待ちしております。

☆ 森 全光君

9日の商工会議所、議員ゴルフコンペにて、ゴールド組のデビュー戦において豊島様、伊藤様と同組で楽しく回らせて頂き、図らずもハンディーに恵まれ優勝させて頂いた慶びで。同伴の皆様に感謝です。

☆ 渡邊 肇君

6月3日に北海道で開催しました全国商工会議所観光振興大会2026において一宮商工会議所のいちのみやだいいフェスタ大集合が「きりり特別賞」を受賞しました。昨年度委員長として授賞式に参加してまいりました。多くの皆様のご協力の元、一宮全体で取り組んだ事が受賞の理由です。ご協力いただいた皆様に感謝です。

☆ 山上哲司君 大鹿晃裕君

本日は、中日新聞一宮総局長市川さんをお迎えして「AIが記者活動をどう変えるか」とのテーマでの卓話をいただきます。ますます複雑になっていく時代ですが置いて行かれないように少しでも学ぶことが出来たらと思います。宜しくお願い致します。また、例会に一宮北RC三輪彦詞会長エレクトをお迎えします。そして6月6日、7日に尾州のカレント主催でのWOOLSTOCKは500名超の方にお越しいただき盛況でした。ありがとうございました。

出席報告

ビジター出席数	1名
現在の会員数	109名
本日の出席数	54名
前々回の出席率	100%

***** プログラム *****

卓話

市川 真氏

(中日新聞一宮総局長)

テーマ「AIが記者活動をどう変えるか」



【タイパ(時間対効果)との対比】

家の枯れた木(幹の直径25センチ、高さ3メートルぐらい)を10時間かけて引き抜いた経験を例に、現代の若者が重視する「タイパ(タイムパフォーマンス)」とは対極にあるが、実は非常に価値のある活動であると考えます。新聞を作ることや読むことも同様に時間をかけて一文字一文字を心に刻み込んでいくプロセスは、人間力や思考力の土台となります。

【新聞業界の衰退状況】

新聞購読部数は2000年代をピークに右肩下がりで、特に都市部での落ち込みが著しい状況にあります。尾張地域では、全紙に記者を張り付けているのは中日新聞のみとなっており、地方の報道体制が大きく縮小されています。選挙報道の取材体制も縮小しており、2024年2月8日の総選挙では読売が7候補、朝日が6候補、毎日が4候補しか取材できなかった一方、中日新聞は全候補を取材しました。

【取材プロセスの複雑性】

新聞記事制作の実例として、小島記者によるレー

ス鳩の記事を紹介します。この記事は1年半という長期間をかけて取材され、最初の取材対象者からの断りを経て、最終的に柴垣さんへの取材に至りました。記事は2024年3月12日に掲載され、多くの反響を得ました。記者による取材は1年半にわたる継続的な信頼構築を経て実現されました。ネタ探しから関係者発掘、取材依頼、再取材まで、極めて時間がかかるプロセスです。

【AI と新聞業界】

AI の役割の限界

一宮市の新聞記事になりそうなネタを質問したところ、「Z世代による街の再発見」「本町商店街の歩行者天国」などの平凡な回答しか得られませんでした。より刺激的なネタを求めても、「繊維の街からファッションの実験場への転換」「モーニングがもたらした安さの呪縛」といった表面的な内容に留まり、特ダネを要求しても、ネット上の噂レベルの情報しか提供されませんでした。AIはネット上の既知情報のみを提供し、記者に必須の「特ダネ」を生み出すことはできませんでした。記者の仕事は面から点を探すのではなく、点から面に上げていくプロセスであり、AIではこの逆方向の思考しかできないという課題が指摘されます。

【AIが対応可能な領域】

地震速報、企業決算情報、自治体予算発表など、フォーマットが決まっている定型業務では AIの活用が有効です。また、データベース検索や専門家リスト作成の補助ツールとして機能するメリットもあります。

【日本の新聞社の対応】

各新聞社でAIの活用基準が異なり、読売新聞は要約・下書きは禁止、朝日新聞は「AIへの全振り」というスタンスを取っています。

【今後の展望】

メディアリテラシーの重要性が強調されます。情報の出所確認、反対意見の積極的な参照、多角的な情報収集など、個人レベルでの情報精査方法を提唱しています。尾張部35自治体への電話取材の結果74%にあたる26自治体が何らかの形でAIを業務に利用していることが明らかになりました。AIの普及は待ったなしの状況であり、企業や行政も活用を始めている一方で、AI利用時の注意点として、ある自治体の資料に9個の漢字間違いがあった事を例に、AIが生成した情報の確認作業の重要性が指摘されています。



6月20日ベルト君送別会